

SG550XGおよびSG350XGスイッチのプライマリバックアップ

目次

[プライマリバックアップ](#)

[プライマリ障害/バックアップスイッチオーバー](#)

[部材ユニットの取り扱い](#)

[フェールオーバー後の元のプライマリユニットの再接続](#)

目的

スタックを動作させるには、プライマリユニットが必要です。プライマリユニットはスタックの設定を処理するアクティブユニットで、他のユニットはメンバの役割を担います。また、スタック内のユニットは、プライマリユニットに障害が発生した場合に、プライマリバックアップの役割も担います。

このドキュメントの目的は、スタック内のユニット障害と、SG550XGおよびSG350XGシリーズマネージドスイッチでの結果のプライマリバックアッププロセスを理解することです。

プライマリバックアップの詳細なデモを行うには、[ここをクリックしてビデオを表示してください](#)。

[該当するデバイス](#)

SG550XG

SG350XG

[\[Software Version\]](#)

v2.0.0.73 - SG550XG/SG350XG

[プライマリバックアップ](#)

[プライマリ障害/バックアップスイッチオーバー](#)

スタックがリングトポロジにあり、ユニット1がプライマリユニット、ユニット2がバックアッププライマリ、ユニット3と4がメンバーユニットであるとし、リングまたはチェーントポロジからすべてのポイントでプライマリが切断された場合、ユニット2が新しいプライマリロールを引き継ぎます。

プライマリの役割を引き継ぐバックアップユニットのこのプロセスは、スイッチオーバーと呼ばれます。スイッチオーバーが発生すると、バックアップユニットがプライマリになり、すべてのプロセスとプロトコルが初期化されて、スタック全体が処理されます。その結果、このユニットに転送されるトラフィックは一時的には存在しません。ただし、メンバー単位はアクティブなままです。

部材ユニットの取り扱い

バックアップユニットがプライマリになると、アクティブメンバーユニットはアクティブのままになり、元のプライマリからの設定に基づいてパケットの転送を続行し、データトラフィックの中断を最小限に抑えます。バックアップユニットは、プライマリ状態への移行が完了すると、メンバーユニットの設定をデフォルトにリセットすることによって、一度に1つずつ初期化します。これにより、新しいプライマリユニットからの誤った設定を防止できます。

フェールオーバー後の元のプライマリユニットの再接続

切り替え後、元のプライマリがスタックに再接続して元の役割を再開し、新しいプライマリがリポートしてバックアップに再度変更されます。

結論

プライマリバックアッププロセスは、ユニット障害が発生してもスタックが正常に機能し続ける効率的な方法です。プライマリユニットに障害が発生すると、バックアップユニットがプライマリロールを引き継ぎ、プライマリとして機能し続けます。このスイッチオーバーにより、プライマリの障害によってスタック全体が障害を起こすことを防止します。元のプライマリユニットを再接続して再びプライマリユニットにすることも可能ですが、バックアッププライマリユニットは元のバックアップの役割も再開できます。これにより、スタック内のトポロジを簡単に変更でき、残りのメンバー単位を中断する必要はありません。